

## 第 36 回バイオマスタウン構想の公表

### 【新規公表：6 構想の概要】

#### 青森県田舎館村（いなかだてむら）

田舎館村は、地域から発生する稲わら、もみ殻、生ごみ、下水汚泥、果樹剪定枝等のたい肥化や燃料化、廃食油を利用したハウスの加温など環境にやさしい農業を推進し、環境と調和のとれる循環型社会の形成を目指す。

#### 秋田県大館市（おおだてし）

大館市は、かつては主力産業であった鉱山の技術を活用してリサイクル産業を育成し、エコタウン構築の取組に力を入れている。今後は、大館市バイオマスタウン構想書に基づき、廃食油や木質系バイオマスの利活用などにより、温室効果ガス削減を目指す。

#### 福島県喜多方市（きたかたし）

喜多方市は、地域から発生する生ごみ、汚泥、家畜糞尿等を利用したたい肥化、廃食用油のBDF化など、『バイオマス資源を活用した、地域循環型社会の形成』を目指し、土づくりと安心・安全な農産物の需要拡大、クリーンエネルギーの利活用を推進する。

#### 山梨県道志村（どうしむら）

道志村は水源かん養林の保全のための間伐促進と林地残材の活用や、生ごみ、浄化槽汚泥及び家畜排せつ物の処理という二つの課題を解決するため、未利用資源活用の木質系バイオマス事業に取組み、たい肥、燃料チップ、バイオエタノール等を製造するための変換施設を段階的に整備し、地域社会を豊かにする「循環型社会」を構築する。

#### 高知県高知市（こうちし）【旧春野町バイオマスタウン構想は廃止する】

高知市は、利用率が低い林地残材などの未利用バイオマスの利活用を推進するため、竹バイオマスのマテリアル利用、木質ペレット化事業を検討する。竹林等の整備を積極的に進め、森林資源の利用率向上を図り、地域の活性化を目指す。

福岡県川崎町（かわさきまち）

川崎町は、廃食用油の燃料化、生ごみと処理汚泥を利活用したメタン発酵によるエネルギー回収、及びメタン発酵の際に発生する液肥の農地還元により、循環型社会の構築、新たな事業による雇用の創出、環境の保全と豊かな自然の次世代への継承を目指す。また、将来的には市町村の枠を超えた広域によるバイオマス利活用の取組を検討する。

#### 【改訂：1 構想の概要】

北海道八雲町（やくもちょう）

八雲町の基幹産業は農業と水産業であり、家畜排せつ物やホタテ貝養殖から発生する水産系廃棄物等のバイオマスが豊富である。これらのバイオマスから良質なたい肥を生産し、農地還元による土づくりを通じて、農業の生産性の向上を図り環境への負荷の軽減に配慮した持続的な農業の構築を目指す。